

日商簿記 1 級過去問ゼミ (CMC合格メソッド) ダウンロード講座

【第 132 回 : 工業簿記・原価計算】

収録日 : 平成 25 年 11 月 8 日

【総評】

この回は、直前の商業簿記で脱力感の出た方が多かったと思います。
でお、「自分ができない時はまわりも同じ」、日商簿記 1 級は相対試験である事を思い出し、こんな時こそ、工原で挽回のつもりで頑張るべきです。

前半の商会もあわせると、合格者イメージは、下記のようなものだと思います。

商業簿記 20 点・会計学 18 点・工業簿記 14 点・原価計算 21 点→73 点

今回は、基本論点をしっかり学習しておけば、70 点超えは十分狙えました。

受験後の感想を聞くと、工業簿記に苦しんだ方が多かったようです。

ただ、原価標準と完成品原価は非常に簡単な問題であり、また標準原価計算の基本は「当月投入額の分析」という事が理解できていれば、悪くても足切は回避できたと思います。

90 分の使い方

5 分 : 全体を見渡して、どこから解くかを考える

原価計算は第 1 問は深く考えず処理。残りの問題を 30 分じっくり攻めて 20 点以上のゲットを狙おう。

工業簿記は問 1 と問 7 は確実に。

問 2 の価格差異、問 5 の労働価格差異 (賃率差異)、問 6 の消費価格差異 (予算差異)、不動産能力差異 (操業度差異) も 2 級の知識で解ける問題です。

最低でも、ここを押さえれば (TAC 配点 9 点*問題 2 で 2 点)、(NS 配点も同じ) 11 点にはなります。

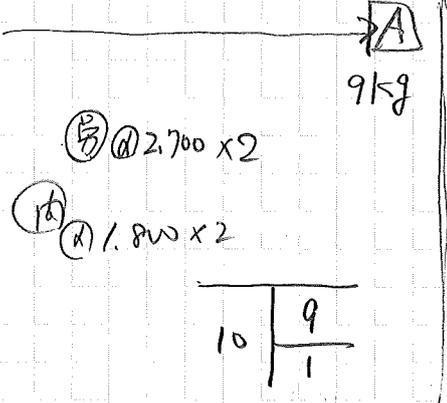
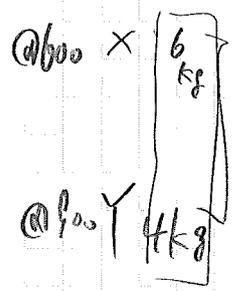
商会が得意な方は、十分合格圏内でした。

では、解説をすすめます。

まずは原価計算から説明します。

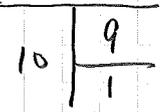
<132日工簿>

16.650kg



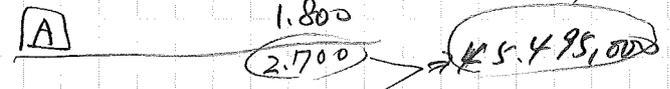
(7) @ 2,700 x 2

(15) @ 1,800 x 2



(10) @ 500 x 1 = 500

(15) @ 400 x 1 = 400



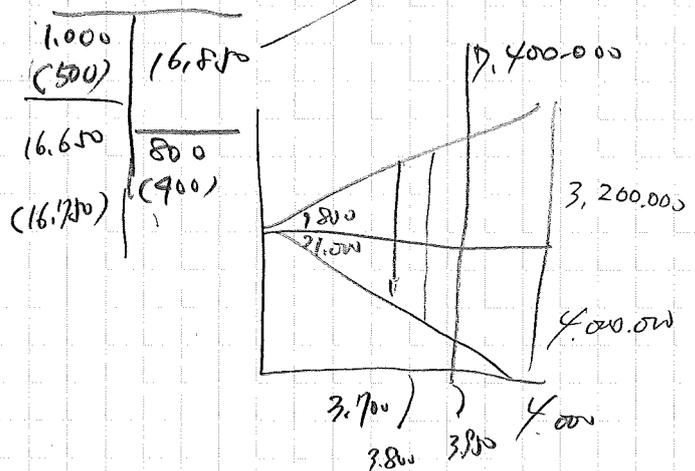
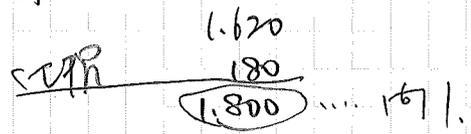
1kg 7分 = 11

X @ 600 x 0.6 = 360

Y @ 900 x 0.4 = 360

(7) @ 2,700 x 0.2 = 540

(15) @ 1,800 x 0.2 = 360

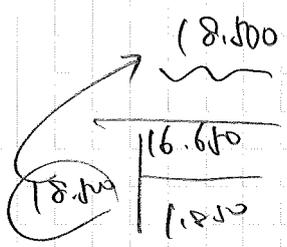
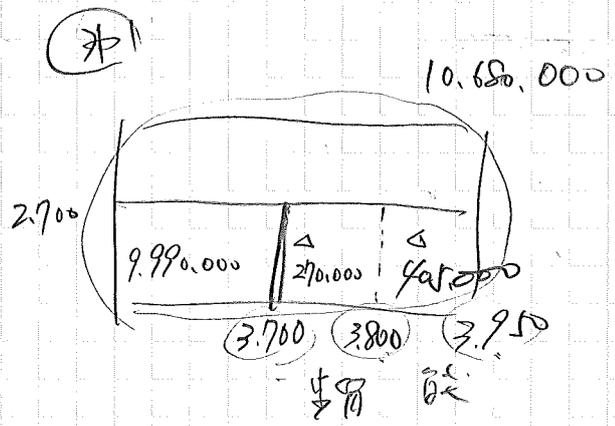


(16) 2 x 7,200,000 / 12 x 7,000,000 = 120,000 (16) 2

(5) Δ 180,000 (15) Δ 60,000

600 X 11.100 11.400 11.500

Y 7.400 7.600 7.500



19,000 (16) 19,000

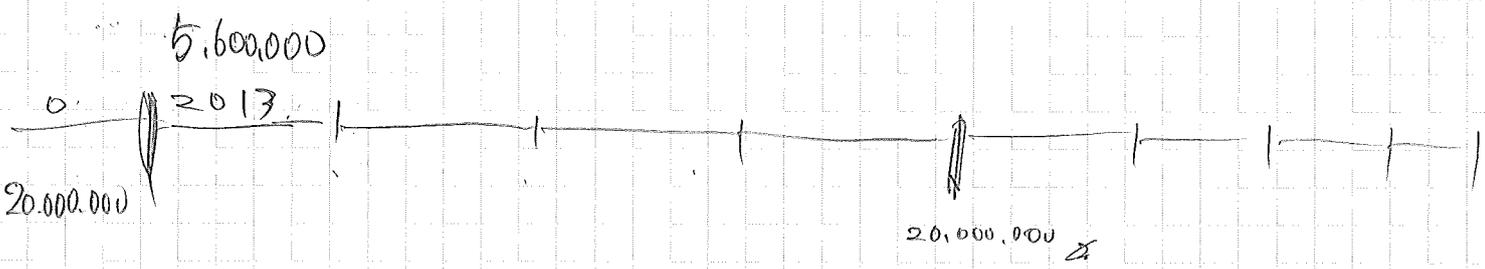
7.100

132回 原価計算

(167)
(162)

2012.10 \boxed{A} $1,100 \times 600 \text{ (B)} \Rightarrow 660,000$ 有利
 $\text{Q} 1,000 \times 2,000 \text{ (B)}$ $\text{Q} 1,200 \times 600 = 720,000$ 有利
 合計 有利 $60,000$ (有利)

A $1,000 \text{ (Q} 1,000 \text{)} / 1,000,000$
 B $950 \text{ (Q} 1,000 \text{)}$
 $100 \text{ (Q} 600 \text{)} / 1,000,000$



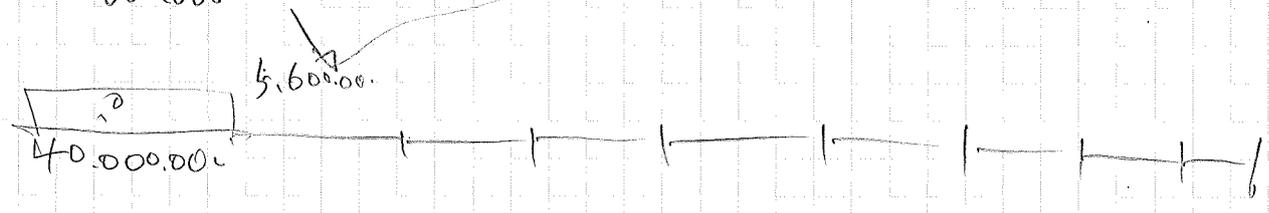
売上 5,000,000
 tax 2,000,000

(1127)

$5,600,000 \times 6.7327 = 37,703,120$
 $\Delta 20,000,000 \times 0.2548 = \Delta 5,096,000$
 $\Delta 20,000,000$

原 10,000,000
 E 9,000,000
 6,000,000
 売上 5,000,000
 + 1,000,000
 400,000
 600,000

(1127) $6,000,000 \times 0.6 + 2,000,000 = 5,600,000$



売上 5,000,000
 tax 2,000,000

$5,600,000 \times 6.7327 = 37,703,120$
 $\Delta 20,000,000$